

… 令和6年度の…

ごみ質調査結果報告

村では、もえるごみの中の資源の混入割合を把握し、さらなるごみの減量化・資源化施策に反映させることを目的として、ごみ質調査を行っています。令和6年度は7月、9月、12月、2月の計4回実施し、調査結果は次のとおりでした。

(単位：%)

測定年月		7月8日	9月17日	12月16日	2月14日	平均
ごみの種類組成	紙類・布類	55.3	47.3	47.3	48.9	49.7
	ビニール、合成樹脂、ゴム、皮革	17.8	22.6	14.4	21.1	19.0
	木、竹、わら類	5	8.2	4.7	3.5	5.4
	ちゅう芥類	18.3	21.3	21.5	20.1	20.3
	不燃物類	1.2	0	1.1	0	0.6
	その他	2.4	0.6	11	6.4	5.1

- ちゅう芥類とは、野菜くずや食べ物の残り物など、生ごみのことです。
- ごみの種類組成測定方法は乾式による方法とし、乾式とは、集積所のごみを乾燥機で乾燥した試料のことをいいます。

	紙・布類	ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革	木・竹・わら類	ちゅう芥類	不燃物類	その他
神奈川県全処理施設のごみ質の平均値	46	23	10	13	4	5
清川村	49.7	19	5.4	20.3	0.6	5.1

	ごみの三成分		
	水分	可燃物	灰分
神奈川県全処理施設のごみ質の平均値	45	43	5
清川村	52.1	48	7



- 村と神奈川県内の一般廃棄物処理施設の平均を比較すると、ちゅう芥類の割合が20.3%と高く、ごみの三成分のうち、水分の割合もやや高くなっています。ちゅう芥類以外の項目は平均的ですが、紙・布類が50%に近いことから、もえるごみの中にまだまだ資源として分別できるものがあると考えられます。生ごみの水切りを行うことやコンポストでたい肥化すること、また、紙や布を資源として分別していただくことで、もえるごみの量は確実に減量されます。村でもコンポストを無料貸与しておりますので、ぜひご利用ください。引き続きごみの減量化と資源化にご協力お願いいたします。